

気鋭の宗教学者として注目を集めてきた同志社大神学部教授の小原克博さん(48)は、1990年代前半にホームページをいち早く立ち上げるなど、インターネットを研究・教育に積極活用し、ネットが社会にもたらす影響を論じてきた。欲するものを即座に与えてくれるネットへの「依存」が進み、「信仰」にも似つつある今、人々が自らの主体性を取り戻すことが、これからの知性・教養の基盤になると位置づける。

「日常の生活に、ネットは多大な影響を及ぼしています。」

人々の精神にまで影響しています。無料通信アプリLINE(ライン)を使う若者の中には、食事や入浴の時もスマホを手放せない人さえいます。メッセージが届くとすばやく返事するのが仲良くするための作法ですから、同調圧力を常に感じている。スマホなしの生活など考えられないでしょう。

24時間のうち、人びとが接する世界は、ネットを介した仮想世界がかなりの部分を占める。フェイスブレイに表れた情報に、一番の信頼を感じやすい。自分の目で見て、ものを評価、判断する機会が少なくなっている。現実世界がどんどんデジタルな世界に組み込まれていっています。今後「ネット依存」という言葉は、当たり前すぎて死語になる。多くの人たちは依存している認識すらないと思います。

「プラスとマイナスの両面がある。価値判断の基準も変わりました。」

世界に向けて研究者が成果を発表し、ネットをうまく使えば見知らぬ者どうしが出



「独裁者のような実体がなくても、システムとして人を動員することは起こりえる。ネット時代の危うさです」(京都市上京区・同志社大) —撮影・山本陽平

# 極意の知

宗教学者  
小原 克博さん

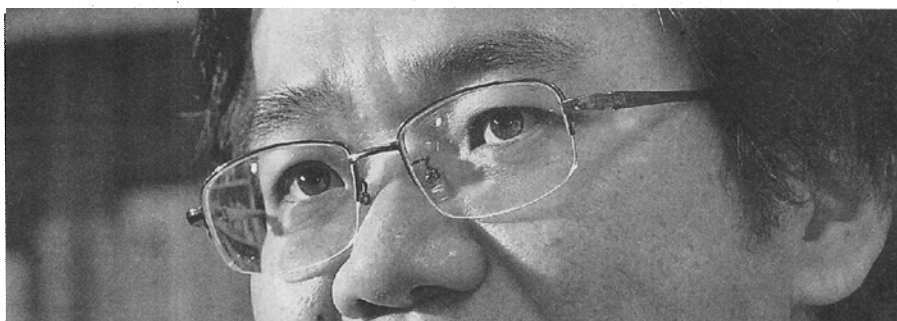
4

会い、交流することができるといえる時代です。いや、その利便性を否定する人はいませんが、人や物の交流にとどまらず、時には社会を変える力にもなる。プラス面の部分は大きい。

しかし、マイナス面とも向き合う必要が出ています。グーグルのような検索機能を考えてみましょう。瞬時に答えを返してくれるので、便利な反面、上位に引っかけた情報だけをつまみ食いする場面が多くあります。

ネット通販大手のアマゾンや楽天のように顧客の購入パターンや食ベログでの飲食店の選り方を見ると、評価の星数が幾つあるかで判断してしまおう。

すると、手にする情報が限られ、本来なら多様性をもたらすはずなのに、皮肉なほどの画一性をもたらしている。画面上に出てこない情報は、無いかのごとくに扱われる。自分の観察眼より、ネットの評価に身を委ねている。主客逆転し、仮想世



界が優位に立つ。人の欲望をすら操作されている。ある種の全体主義とも言えます。

「このまま仮想世界が広がっていくと、人の存在さえ危うくなりそうです。」

親しい人とながらっている感覚は安心を生むかもしれませんが、しかし、デジタルな世界に依存する限り、非常に脆弱な存在だと言えます。いったん身を委ねてしまえば、LINEのごとく、常にチェックしないと落ち着いた気分になれない。逆に不安の要因になる。周囲に流される浮草のような存在です。

ネットによって「コミュニケーションの自由を得ながら、完全な自由を享受できていない。デジタルなコミュニケーションは簡単に変わってしまう。仲の良かった友達が小さなもつれからギクシャクし、言葉が過激化し、非常に極端な場合、殺人にまで至ってしまう。」



「現代人がデジタルな情報に絶大な信頼を寄せる点では、信仰に近い。「ネット教」とも言えますね。」

人とネットの関係を見る限り、「信仰」との類似性は否定しません。ウィキペディアのように、調べたら何でも教えてくれます。通販や数々のサービスによって、食欲や物欲、性欲といった基本的な欲望も満たしてくれる。人々を一定の方向に誘導することすら可能です。あたかも神のような全知全能を感じさせる側面はあるかもしれません。

しかし、宗教とネットは根本が異なります。仏教やキリスト教などの伝統的な宗教は「断ち切る力」も教えています。出家のように俗世から身を引く、今ある社会秩序や人間関係は必ずしも絶対ではない、とする考え方がです。私は私の力で立ち立つ。その作法をどうやってみつけていくのか。21世紀の知の技法に求められている。仮想世界に極端に没かった人間を、時にはそこから断ち切り、どう解放していくのか、現代的な課題と言えます。

人は苦難から逃れたり、癒やされたり、自由になるためにも、異なった世界が必要でです。そこにネットが一定の役割を担ってきたはずなのに、極端に依存するあまり、仕事から趣味、公私の人間関係に至るまでを覆い尽くしています。大多数が良いと思うことに身を委ね、同調しなければ損害されるかもしれない。老若男女を問わず、そんな同調圧力にさらされるようになっていきます。

誰が支配者なのか分からないけれど支配されている。自由と思いつつも実はそうではない。選んだつもりなのに、システムがもたらした結果だったりします。まずは立ち止まって考え、ネットとは異なる非日常の時間をつくらなければならない。ネットを突き放して対象化する知恵が必要なのではないかと感じています。

(聞き手 二松啓紀)

## 極度のネット依存が不安助長 断ち切り対象化するすべ持て